



〒 399-0711 長野県塩尻市大字片丘字南唐沢 6342-4

TEL (0263)53-8802 FAX (0263)51-1290 E-mail : kikaku@edu-ctr.pref.nagano.jp

目次

校内研修支援のひろば . . . . . 1  
 学力を高める授業のポイント⑭ (外国語編) . . . . . 2  
 研修講座の様子から 小学校でのプログラミング教育 . . . . . 3  
 多くの高校生がセンターで学びました 生徒実習の様子 . . . . . 3  
 「春休み課題帳」をご活用ください . . . . . 4

校内研修支援のひろば



今回は「学力向上に向けた授業づくり」について、地区での研修会で5年研・中堅研の先生方にお話しさせていただいたことをご紹介します。今回は、自身のライフコースから学力向上に向けた授業づくりを考える機会とさせていただきました。

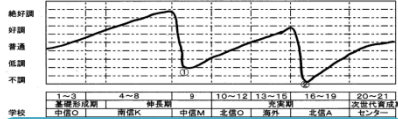
これまでの教員生活を振り返り、大切だと感じていることをお話しさせていただきました。

目の前の子どもをスタート地点にすると、ということがいかに大切かを体験しました。



子どもは、先生に認められ、褒められたいんだなあ、心から願っているんでしょね。

私のライフコースとターニングポイント



当時の私は、このような気持ちだった、という評価で書かれています。

ターニングポイント

先生方との出会い

今までのやり方を捨てる

目の前の子どもを中心に

出合いを大切にできる先生  
 謙虚に話しを聞くことのできる先生

出合いがターニングポイントになりました。

「予想のつかない世界」に生きる子どもたちに、どんな力をつけさせてあげなければならないのでしょうか？

次期学習指導要領では、いろいろな言葉があふれています。

次期学習指導要領のキーワードは「子どもが主語」

「子どもの学力」ですから「子どもを中心に」

対話的・主体的で深い学び (アクティブラーニングの視点)

資質・能力

教科横断的

社会に開かれた教育課程

カリキュラム・マネジメント

見方・考え方



授業観の大きな転換！

学習指導要領改訂の方向性  
 新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

目標論＝学力論

子どもは何ができるようになるか

子どもは何を学ぶか 子どものように学ぶか

教育内容論 教育方法論

アクティブ・学習者の育成

学力向上に向けた授業づくり

出合いを大切にできる先生  
 謙虚に話しを聞くことのできる先生

子どもを主語にできる先生 → 教材研究

本県には以前から「子どもを主語」とした実践・研究会があります。

## 学力を高める授業のポイント⑭

### 外国語 編



トモニ先生

新学習指導要領では5・6年生に文字の指導が入っているけれど、「書く」活動をどのように行ったらいいかな？

何度も繰り返し単語を書く練習をしたり、テストなどで書けるかどうかチェックをしたりする必要もあるのかな？



つなぐ先生

小学校学習指導要領解説 外国語編に「相手に伝えるなどの目的をもって」とあります。つまり、いわゆる機械的な反復練習や単語テストのようなドリルは、小学校外国語には馴染みません。



ミガコ先生

学習指導要領解説に「書き写す」と示されていたので、何度も書く練習をしなくてはいけないのかと思っていました。



子どもたちにとって「書く」活動は教師が思っている以上に時間がかかるもので、何より大切なことは音声で十分にインプットすることです。その上で、「目的をもって書く」活動を行うことが大切です。



なるほど。例えば、自分の名前や年齢、好き嫌いなどを学習した後に、イラストを入れた「自己紹介カード」を作ってお互い見合ったり、「オリジナル名刺」を作ったりする活動はどうですか。



作った名刺を交換して話す活動に広げられることもできますね。でも、英語を書くことが初めての児童がそんなにたくさん書くのかな。



そこで「書き写し」が大切になります。習ったことをそのまま書くのではなく、新教材 We Can! のワードリストなどから自分が表現するのに必要な言葉を選んで書きます。自分の思いや考えに合わせて置きかえることで、興味・関心も高まるでしょう。一度にたくさん書くのではなく、毎時間一つずつ情報を増やしていくなど、児童が負担に感じないように工夫をしましょう。



書き写す活動を通して、児童は文字と文字、語と語の間隔に気がついていきます。なかには間隔を不自然に長く空けて書く児童もいるので、一人一人の筆記の様子を丁寧に観察してとらえ、単語のまとまりを意識させながら指導しましょう。



## 研修講座の様子から

### 小学校でのプログラミング教育 ～プログラミングを通して学ぶこととは～

この講座は、以下のねらいで実施され、29名が受講しました。

＜講座のねらい＞

- ・小学校におけるプログラミング教育の趣旨や導入の経緯を知り、各教科等での授業につなげる
- ・実践事例やプログラミング体験から、プログラミング教育の推進につなげる。

＜主な内容＞

(講義)「なぜ、小学校にプログラミング教育!? 理念と実践例」岩手大学教育学部 宮川洋一 准教授  
 (演習)「パーソナルロボットPepperのプログラミング体験」株式会社電算 技術推進本部 藤井治樹 氏  
 (演習)「各教科等におけるプログラミング教育」 総合教育センター専門主事 宮原啓一



＜受講者の感想＞

「プログラミング教育の概要や全体像が見えてきた」「プログラミング的な思考は様々な面で役立つと思った」「普段の教育活動の中でプログラミング教育につながる内容を見つけたい」「漠然としたイメージがクリアになった気がする」「子どもと一緒に楽しみ体験することが大切だと分かった」など様々な感想を戴きました。

講義のみならず、アンプラグドプログラミング的な活動やロボットのプログラミング体験などから、教科の学習との関連性を考えていただけた方も多かったです。



## 多くの高校生がセンターで学びました 生徒実習の様子

本年度は、延べ30校から、約2,000名の生徒さんが実習に取り組みました。学校での対応が困難な応用的・先進的な教材で実習をして、感想を戴きました。人気の高いテーマを写真で紹介します。他にも、様々なテーマで実習が行われました。



### 教育目的組換えDNA実験(農業)



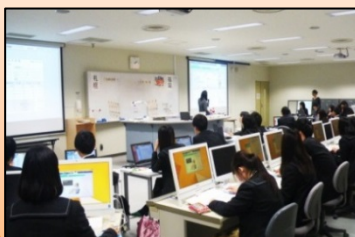
普段、私達が食べている食べ物にも、遺伝子組換え作物が使用されていると聞き興味を持った。こういった食品に使われているかなどに気を付けて口に入れたい。

### ロボットカー(工業)



ロボットのプログラミングというのは初めての経験だったけど、C言語など普段行っているプログラミング以外のものに触れる事が出来たのはとても良かった。

### Web実践システムを活用した取引演習(商業)



実際にメールで取引することで、いつも勉強している「総合実践」の授業内容が、より理解出来るようになりました。良かったです。

### アパレルCAD(家庭)



作品の大きさの調整の仕方を、自分で出来る様になりました。良い経験になりました。将来、役に立ちそうなので、この実習を思い出して活用していきたいです。

